

行 会 ってこーわい ってこーわい

「手話サークルまさき」

手と言葉で
みんなで楽しく手話を楽しむ

No. 94

第2、4火曜日、笑い声がこだまする北公民館。中をのぞいてみると、手を動かしながら話している人たちがいます。

「手で会話ができることが魅力」と手話について話すのは、中村京子さん＝北川原＝(写真下段右から2番目)。手話サークルまさきの代表を務めています。月に2回の活動では、最近の出来事やお知らせなど、手話を交えて情報交換を行います。手話が分からないときは、教え合ったり、1文字ずつ指文字を使ったり。メンバーは、会話を通して少しずつ手話を学んでいます。

「手話でお手伝いできることがあれば」という思いで、20年ほど活動を続けているサークルですが、現在、メンバーの中で呼び掛けていることがあります。「えひめ国体は、全国各地の人と手話ができるチャンスになる」と話す中村さん。地域によって少しずつ異なる手話が勉強できる機会として、他地域の人を手話で迎える「おもてなし」の機会として、できる範囲の活動を考えています。

仕事や家庭の都合に合わせて、みんなで楽しく手話の勉強を一。これからも楽しみながらの活動は続いていきます。



1 アイラブユーの手話で笑顔を浮かべるメンバー 2 活動中は和やかな雰囲気です

メンバー募集中
希望者は中村さん
(☎ 984-7265) まで

▼編集後記

久しぶりの給食。その日の献立は、私が必ず残していたししゃもでした。子どもたちが残さず食べている中で、残すわけにもいかず…。思い切った食べると「あれ、おいしい」。味覚が大人になっただけでなく、子どもたちと一緒に楽しく食べたから、一つ苦手を克服できたのだと思います。給食は、生産者、献立を立てる人、調理する人、届ける人など多くの人が関わっています。今回の特集で少しでも感謝の気持ちを持って食べてもらえたら幸いです。(久保 青葉幼稚園の田植え大会の取材に行ってきました。毎年開催されている田植え大会は、農業に触れる機会が少なくなった子どもたちにとって貴重な経験となっています。水田に足を取られ、泥だらけになりながらも一生懸命に苗を植える子どもたち。その姿を収めようとカメラを手にした私も、もれなく泥だらけに。短い取材でも農業の大変さを感じました。(蔭谷)

Proud! Japan

※日本農業の発展を支援しよう

広報まさきに有料広告を載せませんか？

広報まさきに掲載する有料広告を募集しています。希望者は、町ホームページをご覧ください。

◆広告掲載枠

広報まさきの裏表紙

(下欄3枠、1枠の大きさ＝縦40ミリ×横60ミリ、フルカラー)

◆配布状況

毎月1日発行。発行部数1万1500部。町内全世帯へ配布

◆広告掲載料

1枠、1月当たり2万円

☎ 総務課広報情報係 ☎ 985-4132